

建設現場の安全帯（ハーネス型安全帯）の使用状況等
に関する実態調査結果について

平成29年1月16日

一般社団法人 全国建設業協会

建設現場の安全帯（ハーネス型安全帯）の使用状況等に関する 実態調査結果の概要

1. 調査規模

全建会員企業（地方ゼネコン）に対して、協力会社等のハーネス型安全帯の使用状況等について土木工事と建築工事に分け、47 都道府県協会を通じて、各 1 社（重複あり）に回答を求め、土木 36 社、建築 35 社から回答。

2. 調査結果

（1）土木工事

ア. 問 1 では 7 つの作業場面で、どちらかの安全帯が使われているかを調べたところ、「ハーネスが主である」との回答のあった作業のうち、（1）（2）（3）（4）（7）の作業場面で、ハーネスが主であると答えた割合は、10.0%未満となっている。「半々である」を加えても（3）が 38.7%であり、いずれも総じてハーネス型安全帯の普及率は大きくない状況。

イ. 問 2 では、胴ベルト型からハーネス型安全帯に切り替える方向での検討については、明確な反対は少なく、賛成は 34.3%であるが、段階的に進めていくべきとする意見が 57.1%。

ウ. 問 3 では、回答のあったのが 2 社のみであるため（いずれも「2 丁掛け安全帯で対応できる」と回答）、グラフを作成していない。

エ. 問 4 のハーネス型安全帯の費用負担については、すべて会社負担が 58.6%、一部会社負担が 31.0%となっており、すべて本人負担は 10.3%。

（2）建築工事

ア. 問 1 では、7 つの作業場面で、どちらの安全帯が使われているか、同様に調査。「ハーネスが主である」との回答のあった作業のうち（1）（2）（3）の作業場面で、ハーネスが主と答えた割合が、14.3～37.1%あった。「半々である」を加えると（1）で 45.8%、（2）で 42.9%、（3）で 62.8%とかなり普及しているが、（4）（5）（6）（7）の作業では、ハーネス型が主とするものではなく、「半々である」とする割合が 9.1～22.9%。

イ. 問 2 の胴ベルトからハーネス型安全帯に切り替える方向での検討に対しては、明確な反対は少なく、順次段階的に進めていくべきとする意見が 60.0%。

ウ. イで反対する理由（段階的に進めていくべきとする回答企業を含む）の最も多い理由は、「作業性が悪い」と「2 丁掛け安全帯で対応できる」が各 30.0%、次いで「装着が面倒、重い」と「値段が高い」、とするものが各 20.0%。

エ. 問 4 のハーネス型安全帯の費用負担については、すべての会社負担 48.5%、一部会社負担 39.4%で、すべて本人負担は 12.1%。

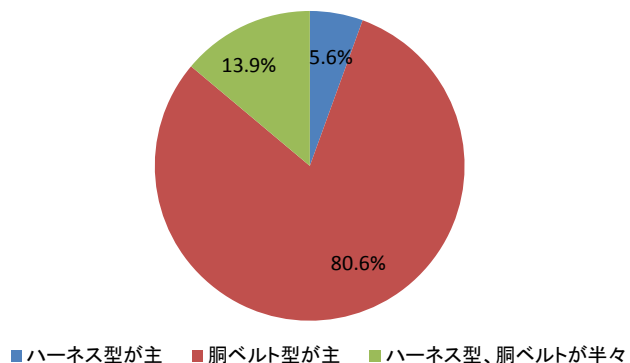
3. 意見

土木工事については、ハーネス型安全帯は普及しているとはいえず、建築工事についても、2.（2）のアの（1）（2）（3）以外は普及しているとはいえないため、これらの実態を十分踏まえて、議論をしていく必要があるのではないか。

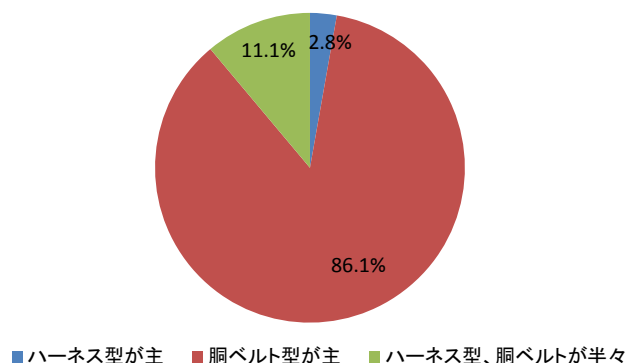
また、ハーネス型安全帯については、作業性が悪い、装着が面倒、重い、値段が高い等の普及を妨げている要因もあるため、これらの点についても併せて検討していく必要があるのではないか。

土木
問1

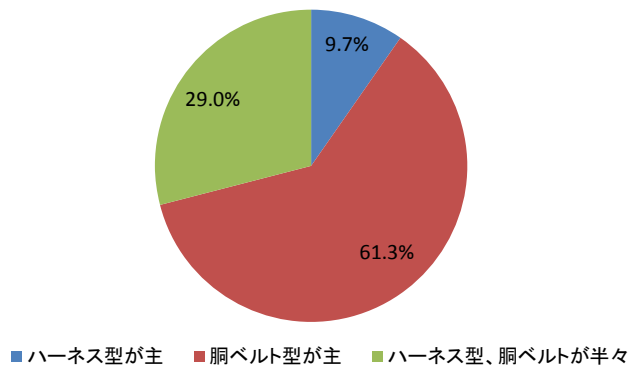
(1) 足場の組立・解体作業(足場とび)



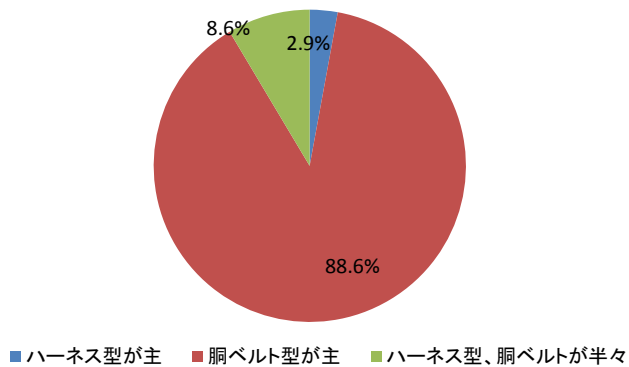
(2) 足場の手すりを取り外して行う作業(足場とび)



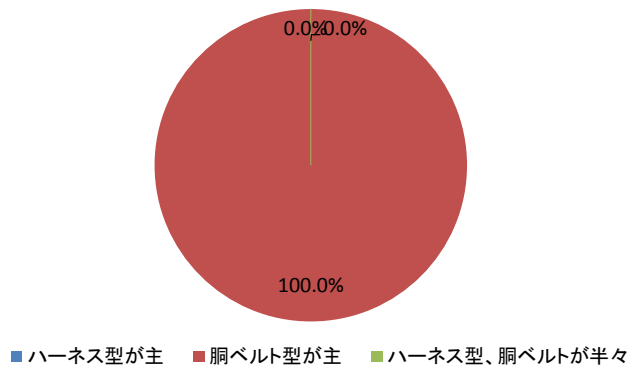
(3) 橋梁の上部構造の仮設、解体または変更の作業で墜落の危険のおそれのある作業(橋梁とび)



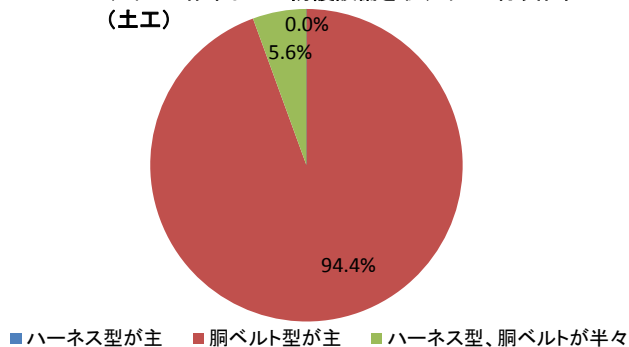
(4) のり面保護工事に係るロープ高所作業(のり面工)



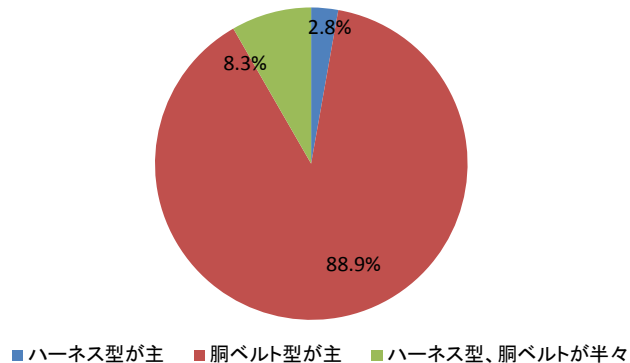
(5) 掘削開口部またはその傍らの箇所で墜落による危険のおそれのある作業(土工)



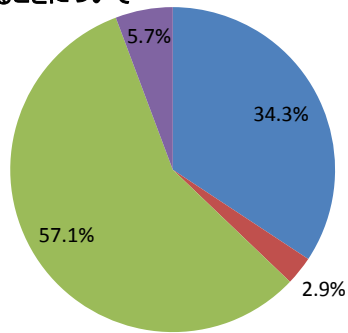
(6) その他、高さ2m以上の箇所の開口部における手すり、囲い、覆い等の防護設備の取り付け若しくは取り外しの作業または防護設備を取り外して行う作業(土工)



(7) その他、高さ2m以上の箇所の作業で作業床が設置できない場合(土工)



問2. 高所作業において、胴ベルト型からハーネス型安全帯に切り替える方向での検討が進められていることについて

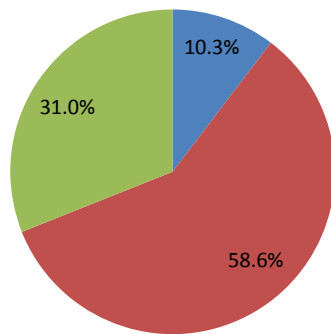


- 賛成である
- 反対である
- 高所作業の頻度が高い作業から順次段階的に進めていくべきである
- その他(自由記載)

問3. 反対する理由について



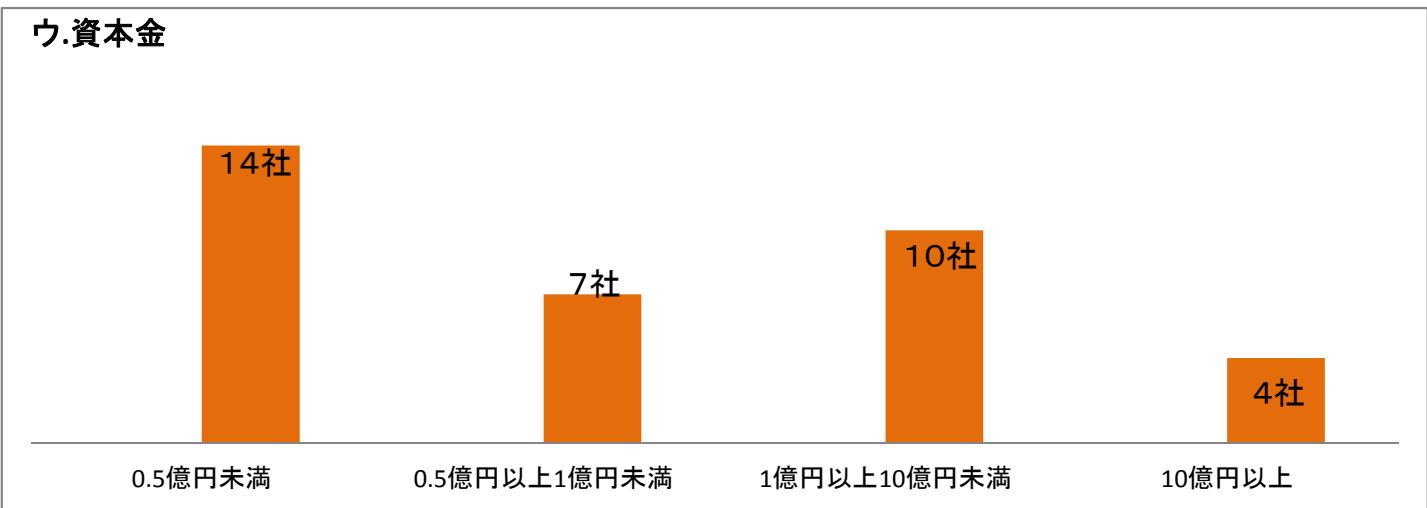
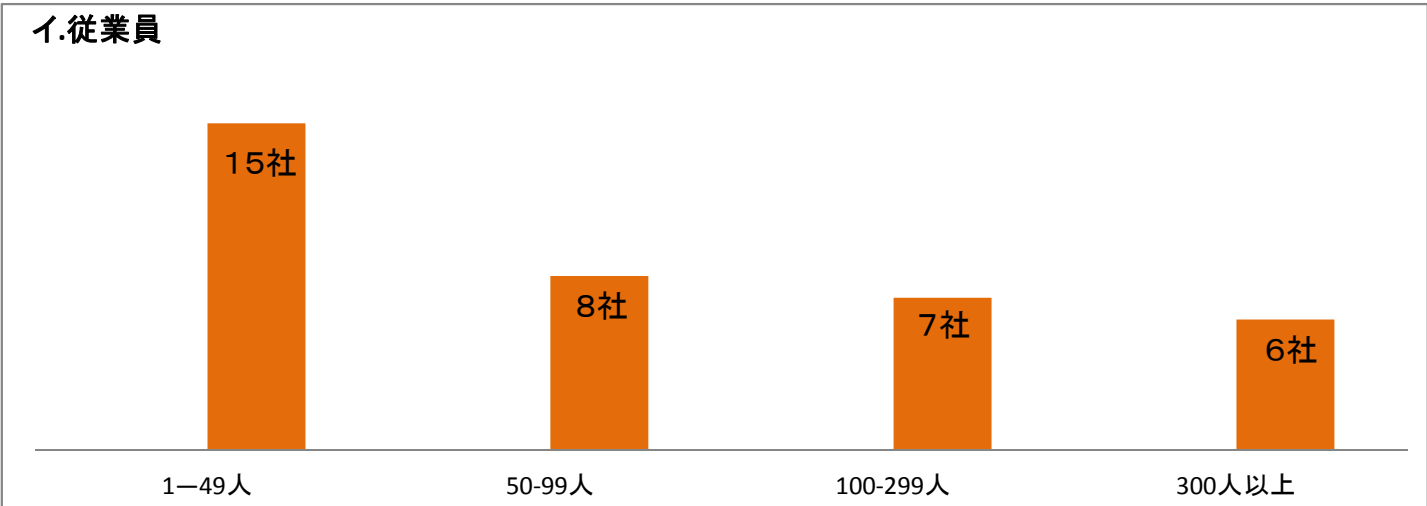
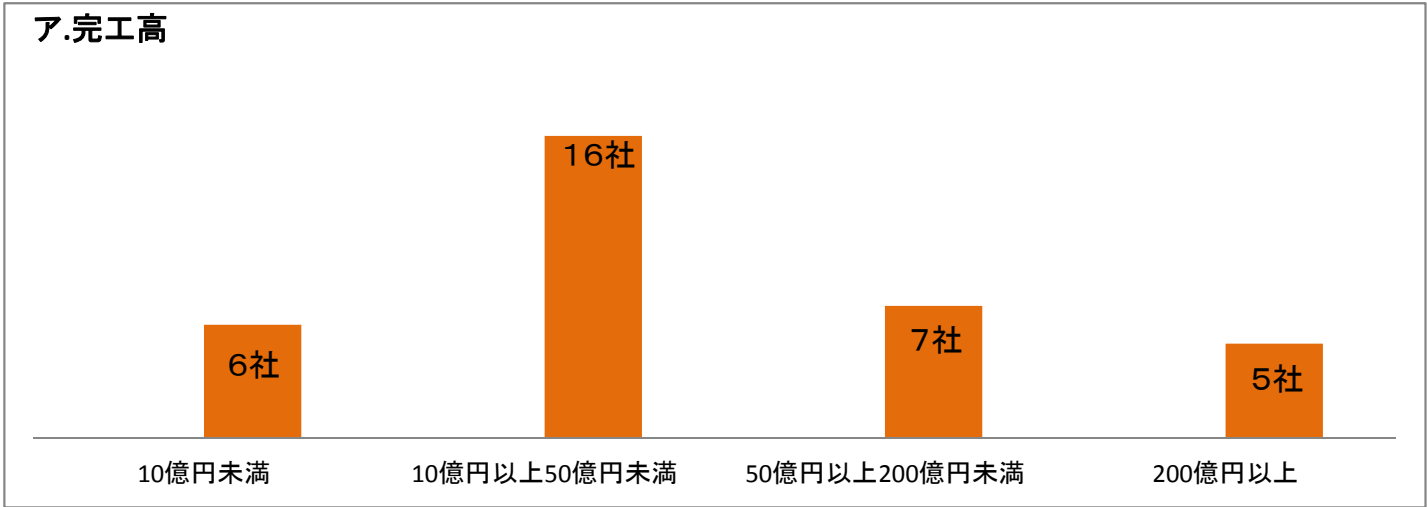
問4. ハーネス型安全帯の費用負担について



- すべて本人負担である
- すべて会社負担である
- 一部会社負担である

回答企業の属性

I 土木



問1. 下請事業者の安全帯の使用状況について、該当する欄に○印をご記入ください。

(1) 足場の組立・解体作業(←※土木だと、橋の補修作業で使う「つり足場」があります)(足場とび)

☐	ハーネス型が主
☐	胴ベルト型が主
☐	ハーネス型、胴ベルトが半々

(2) 足場の手すりを取り外して行う作業(足場とび)

☐	ハーネス型が主
☐	胴ベルト型が主
☐	ハーネス型、胴ベルトが半々

(3) 橋梁の上部構造の架設、解体又は変更の作業で墜落の危険のおそれのある作業(橋梁とび)

☐	ハーネス型が主
☐	胴ベルト型が主
☐	ハーネス型、胴ベルトが半々

(4) のり面保護工事に係るロープ高所作業(のり面工)

☐	ハーネス型が主
☐	胴ベルト型が主
☐	ハーネス型、胴ベルトが半々

(5) 掘削開口部又はその傍らの箇所墜落による危険のおそれのある作業(土工)

☐	ハーネス型が主
☐	胴ベルト型が主
☐	ハーネス型、胴ベルトが半々

(6) その他、高さ2メートル以上の箇所の開口部等における手すり、囲い、覆い等の防護設備の取り付け若しくは取り外しの作業又は防護設備を取り外して行う作業(土工)

☐	ハーネス型が主
☐	胴ベルト型が主
☐	ハーネス型、胴ベルトが半々

(7) その他、高さ2メートル以上の箇所の作業で作業床が設置できない場合(土工)

☐	ハーネス型が主
☐	胴ベルト型が主
☐	ハーネス型、胴ベルトが半々

問2. 問1(1)から(7)のような高所作業を行う場合、胴ベルト型からハーネス型の安全帯に切り替える方向での検討が進められていることについて、次の中から選んで○印を付してください。

- ア 賛成である
- イ 反対である
- ウ 高所作業の頻度が高い作業から順次段階的に進めていくべきである
- エ その他(自由記載)

()

問3. 問2で反対である場合の理由について、次の中から選んで○印を付してください。

- ア 装着が面倒、重い
- イ やぶれる
- ウ 作業性が悪い
- エ 2丁掛け安全帯で対応できる
- オ 値段が高い
- カ その他(自由記載)

()

問4. ハーネス型の安全帯を使用している下請事業主の方にお尋ねいただき、ご回答ください。

ハーネス型安全帯について、費用負担はどうなっていますか。次の中から選んで○印を付してください。

- ア すべて本人負担である
- イ すべて会社負担である
- ウ 一部会社負担である

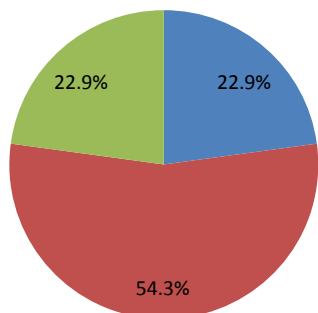
問5. 貴企業(元請企業)の属性についてお伺いします。

- ア 完工高
- イ 従業員数
- ウ 資本金

円
人
円

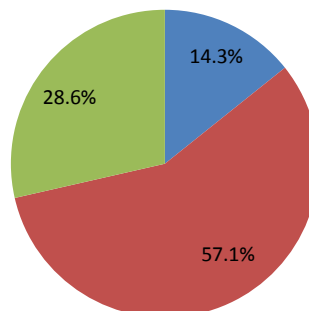
建築
問1

(1) 足場の組立・解体作業(足場とび)



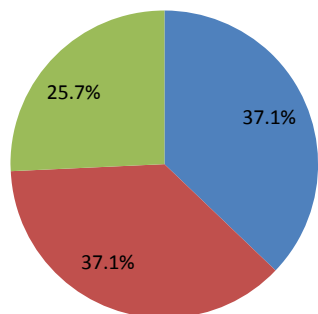
■ハーネス型が主 ■胴ベルト型が主 ■ハーネス型、胴ベルトが半々

(2) 足場の手すりを取り外して行う作業(足場とびほか)



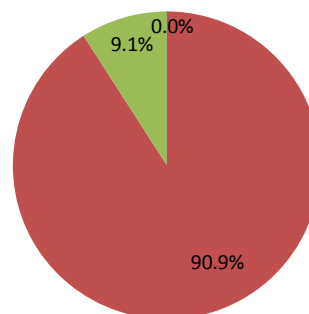
■ハーネス型が主 ■胴ベルト型が主 ■ハーネス型、胴ベルトが半々

(3) ビルその他の建築物の鉄骨骨組み(とび)



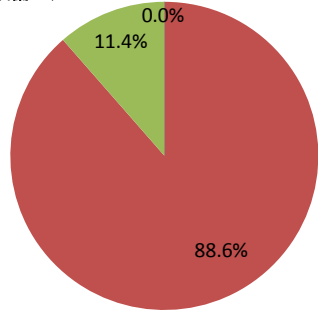
■ハーネス型が主 ■胴ベルト型が主 ■ハーネス型、胴ベルトが半々

(4) 木造建築物の構造部材の組立てまたはこれに伴う
屋根下地等の取り付けの作業(とび・土工)



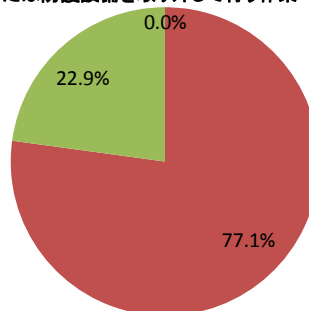
■ハーネス型が主 ■胴ベルト型が主 ■ハーネス型、胴ベルトが半々

(5) 建築物の改修工事、屋根の上の設備工事(足場の設置
が困難であり墜落の危険のある箇所に限る)(とび・大
工・設備工)



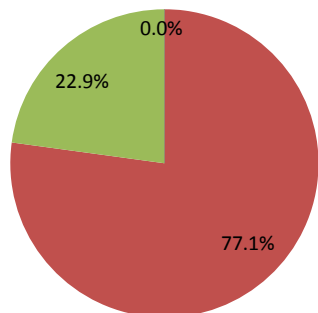
■ハーネス型が主 ■胴ベルト型が主 ■ハーネス型、胴ベルトが半々

(6) その他、高さ2m以上の箇所の開口部における手すり、囲
い、覆い等の防護設備の取り付け若しくは取り外しの作
業または防護設備を取り外して行う作業



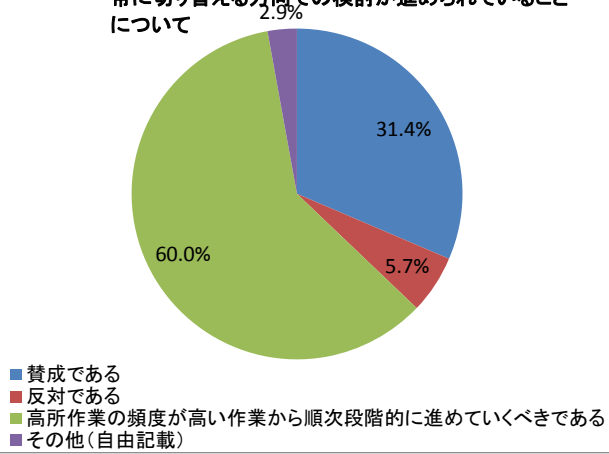
■ハーネス型が主 ■胴ベルト型が主 ■ハーネス型、胴ベルトが半々

(7) その他、高さ2m以上の箇所の作業で作業床が設置
できない場合

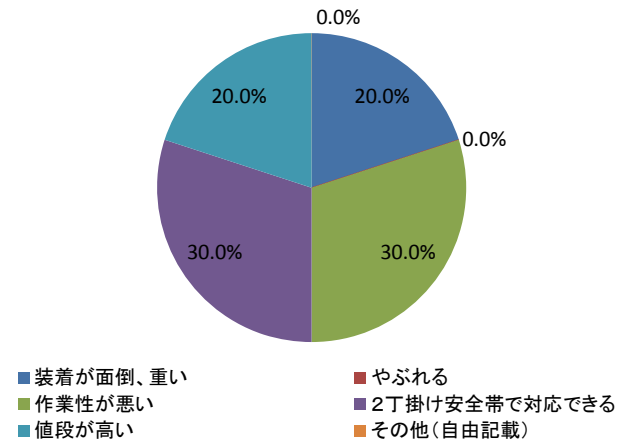


■ハーネス型が主 ■胴ベルト型が主 ■ハーネス型、胴ベルトが半々

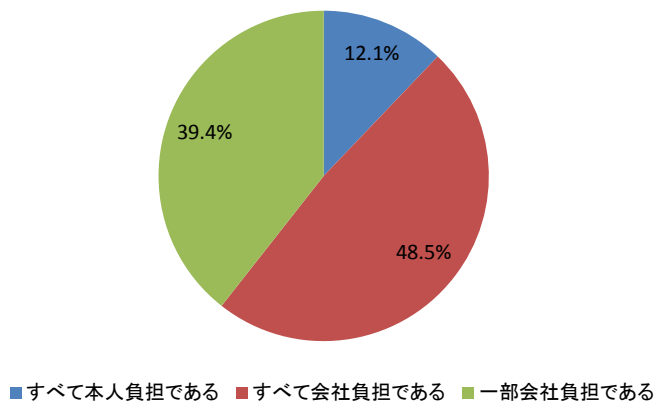
問2. 高所作業において、胴ベルト型からハーネス型安全帯に切り替える方向での検討が進められていることについて



問3. 反対する理由について

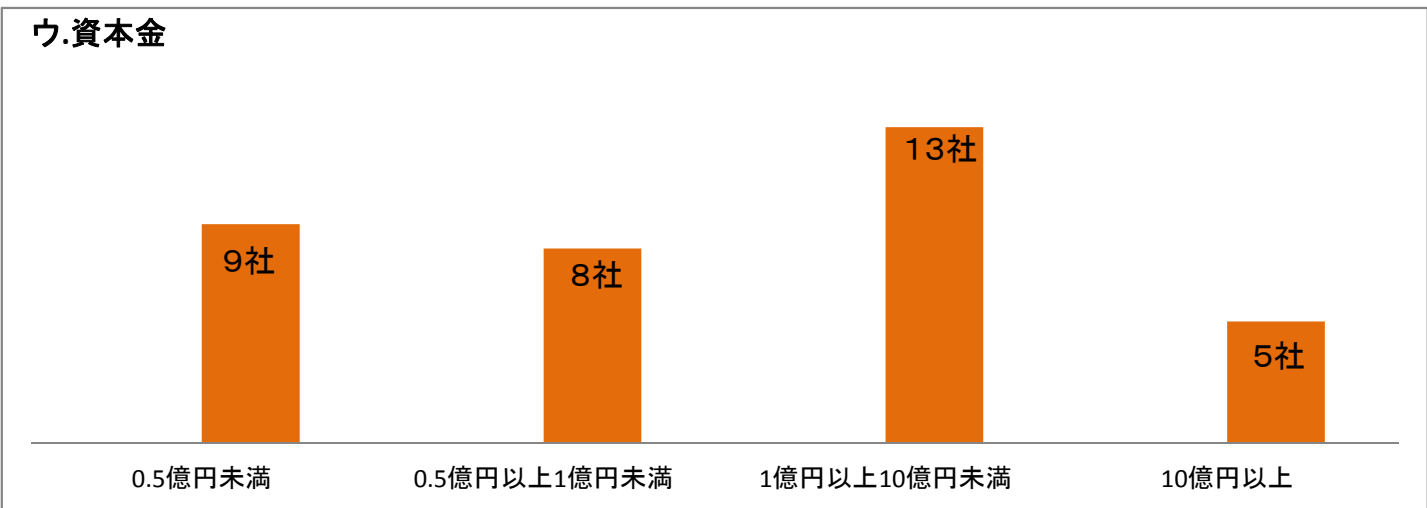
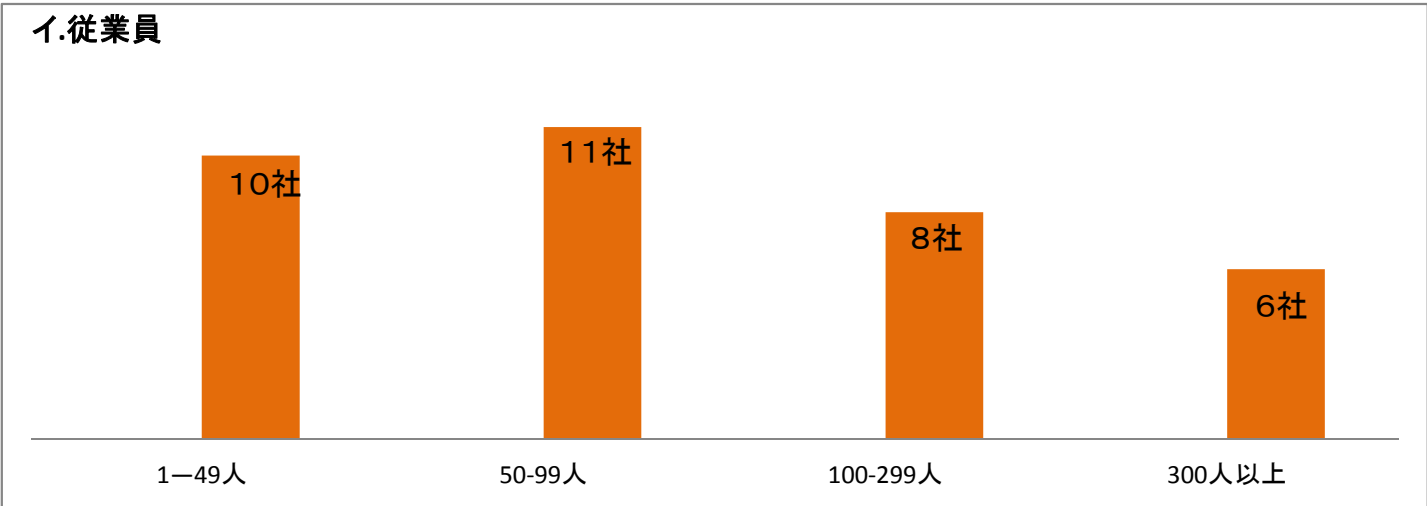
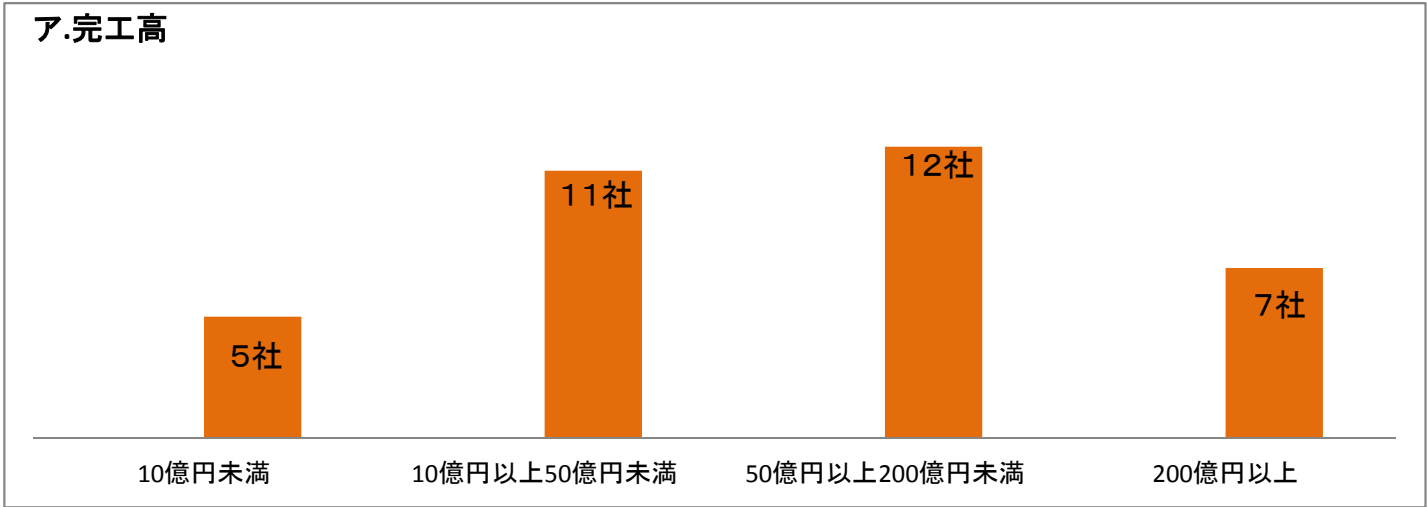


問4. ハーネス型安全帯の費用負担について



回答企業の属性

Ⅱ 建築



問1. 下請事業者の安全帯の使用状況について、該当する欄に○印をご記入ください。

(1) 足場の組立・解体作業(足場とび)

☐	ハーネス型が主
☐	胴ベルト型が主
☐	ハーネス型、胴ベルトが半々

(2) 足場の手すりを取り外して行う作業(足場とびほか)

☐	ハーネス型が主
☐	胴ベルト型が主
☐	ハーネス型、胴ベルトが半々

(3) ビルその他の建築物の鉄骨骨組み(とび)

☐	ハーネス型が主
☐	胴ベルト型が主
☐	ハーネス型、胴ベルトが半々

(4) 木造建築物の構造部材の組立て又はこれに伴う屋根下地等の取り付けの作業(とび・大工)

☐	ハーネス型が主
☐	胴ベルト型が主
☐	ハーネス型、胴ベルトが半々

(5) 建築物の改修工事、屋根上の設備工事(足場の設置が困難であり墜落の危険のある箇所に限る)(とび・大工・設備工)

☐	ハーネス型が主
☐	胴ベルト型が主
☐	ハーネス型、胴ベルトが半々

(6) その他、高さ2メートル以上の箇所の開口部等における手すり、囲い、覆い等の防護設備の取り付け若しくは取り外しの作業又は防護設備を取り外して行う作業

☐	ハーネス型が主
☐	胴ベルト型が主
☐	ハーネス型、胴ベルトが半々

(7) その他、高さ2メートル以上の箇所の作業で作業床が設置できない場合

☐	ハーネス型が主
☐	胴ベルト型が主
☐	ハーネス型、胴ベルトが半々

問2. 問1(1)から(7)のような高所作業を行う場合、胴ベルト型からハーネス型安全帯に切り替える方向での検討が進められていることについて、次の中から選んでください。

- ア 賛成である
- イ 反対である
- ウ 高所作業の頻度が高い作業から順次段階的に進めていくべきである
- エ その他(自由記載)

()

問3. 問2で反対である場合の理由について、次の中から選んで○印を付してください。

- ア 装着が面倒、重い
- イ やぶれる
- ウ 作業性が悪い
- エ 2丁掛け安全帯で対応できる
- オ 値段が高い
- カ その他(自由記載)

()

問4. ハーネス型の安全帯を使用している下請事業主の方にお尋ねいただき、ご回答ください。
ハーネス型安全帯について、費用負担はどうなっていますか。次の中から選んで○印を付してください。

- ア すべて本人負担である
- イ すべて会社負担である
- ウ 一部会社負担である

問5. 貴企業(元請企業)の属性についてお伺いします。

- | | |
|--------|---|
| ア 完工高 | 円 |
| イ 従業員数 | 人 |
| ウ 資本金 | 円 |